

## 大通公園を望む窓辺から

### 伊勢へ七度(ななたび)熊野へ三度(さんど)

常任理事 笹本 洋一

和歌山県・奈良県・三重県にまたがる紀伊半島に、紀伊山地の霊場と参詣道（さんけいみち）という世界遺産がある。2004年7月に文化遺産として登録されたものである。5月の連休を利用して、その中の熊野三山と熊野参詣道を訪れた。熊野三山は、熊野本宮（ほんぐう）大社、熊野速玉（はやたま）大社、熊野那智（なち）大社の総称である。三山の入り口、速玉大社は勝浦駅近くにあり平地で訪れるのは容易である。他は霊場というだけに、山中に点在し車でなければ移動は難しい。いずれも石段が多く、天候によっては上り下りに苦勞するだろう。那智大社からは落差日本一の那智の滝が見えて、絶景であった。参詣道は山道であるが、国道と並走する箇所もあり、歩く人も多い。世界遺産だが、我が身も含めて国内外の参拝者（観光客）が大勢いて込み合い、一大観光地であった。

お盆に休みを取り、数十年ぶりにお伊勢参りをした。しきたりに従い、外宮（げくう）、内宮（ないくう）の順にお参りした。それぞれ、皇大神宮（こうたいじんぐう）、豊受大神宮（とようけだいじんぐう）と呼び、伊勢神宮というものはなく、通称だそうである。平成25年に式年遷宮された正殿（しょうでん）などの社殿は、まだ真新しく新鮮であった。学生の時に参拝してから2回遷宮されたわけである。外宮の正宮（しょうぐう）前にパーストーンがある。しめ縄で囲まれた三ツ石で、正式には川原祓所（かわらはらいしょ）と言うそうで、手をかざしてみた。暑さのせいかパワーが伝わったかよくわからなかった。

熊野の旅行中、「伊勢へ七度熊野へ三度」という言葉を知った。信心の厚いこと、信心にすぎることはないという意味である。「一生に一度はお伊勢参り」と言われているが、交通の発達した現代でも、たびたび訪れるのは難しいのではないか。そう思っていたら、外宮と内宮の参拝者は、昨年838万人で、その前は2年続けて1000万人を超えたそうである。頻繁に参詣する人は意外に多いのかもしれない。

真夏の盛りに、日本人のルーツを身近に感じる事ができた。



### 北海道医師会グループ保険

監事 篠島 弘

保険といっても各種多様な保険があることは皆様もご存知のことと思います。

大きく分けると公営のものと私営のものがあり、公営保険には、社会政策ないし社会福祉としての保険である社会保険（公的医療保険、公的年金保険、公的介護保険、雇用保険、労災保険）と経済政策としての保険である産業保険（農業、漁業、漁船、貿易保険）があります。

私営保険には、生命保険会社が販売運営する生命保険（人の生死に関して一定額の保険金を支払う）と損害保険会社が扱う損害保険（偶然の事故によって生ずることのある損害を填補する）、ならびに生命保険分野・損害保険分野の両者にまたがる第三分野保険（医療保険、介護保険、がん保険）があります。損害保険は自動車、バイク、自転車、火災、地震、スポーツ傷害、ゴルフ、旅行、学資、留学、ペット、所得補償、個人賠償、盗難など多種にわたります。

私も古来稀なる年齢を超え、人生のカウントダウンが始まりました。今まで幾つもの保険に入っていましたが、入院を必要とするような大病を患うことはなく、がん保険金、傷害保険金や火災保険金を受け取ることもなく、掛金は無駄になりました。言い換えれば、今まで無事で極めて幸運だったということがいえます。

新たな保険の加入はやめました。北海道医師会グループ保険のみは掛金が安いので、御守り代わりに継続しています。この保険については毎月発行される北海道医報の裏表紙の内面に広告が載っています。1年更新、毎年保険内容変更可能、診査不要（告知書扱）、団体加入により個人で加入する生命保険会社よりも割引率が高く掛金は安価などの特徴があります。若い先生にはお得な保険です。どうぞ加入を強くお勧めします。